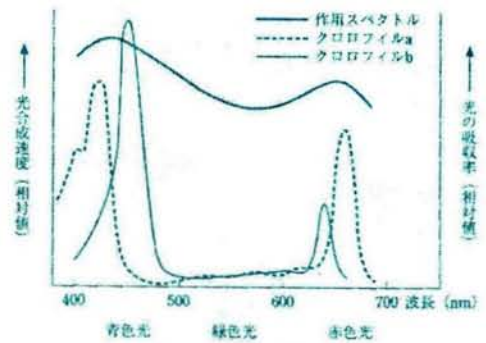


## 緑の光

今年も豊中市に多くの若い先生方をお迎えすることになりました。先日も初任者の研修があり、はつらつとした明るい雰囲気新しい息吹を感じました。初任者の先生方が、これから研修や先輩の先生方からのアドバイスなどを通して、教師として成長し、学校を支える力となっていくのだと感じました。

先日、山里を訪れたときの事です。わらぶきの屋根、レンゲ畑があり、周りの山々は、新緑に覆われていました。明るい色から濃い色の緑まで、緑色といっても一言では表現できない様々な色彩で、木々や山々が生き生きと見えました。新しい息吹を感じ、風を受けながら、木々の緑に不思議を感じていました。なぜ葉は、緑色に見えるのでしょうか？なぜ緑に色の違いがあり、同じ葉でも初夏と盛夏では色が違うのでしょうか？



光合成の作用スペクトルとクロロフィルの吸収スペクトル

葉が緑に見える理由について、高校の生物では光合成の説明のなかで次のように触れられています。『図のように「光合成の作用スペクトル」と「(光合成に関係している)クロロフィルの光吸収スペクトル」のグラフを比較してみると、どちらも青色と赤色で最大になる曲線となることから、クロロフィルが青い光と赤い光を吸収し、光合成に作用している。残った緑の光が反射や散乱し、葉が緑色に見える。』

ところが、クロロフィルの吸収がほとんどない緑色の光も光合成に作用していることがグラフから読み取れます。葉の中で散乱や反射された緑色の光は、多くのクロロフィルに出会う度に少しずつ吸収されていくのです。このことを緑色の光の「寄り道効果」と言うのだそうです。この効果のおかげで、緑色の光も葉の中を進む中で、わずかながら吸収されていくのだそうです。

『「光合成にもっとも効率的に利用される光は、青色光と赤色光であること」を知ると緑色の光が無駄になっている様な印象を受ける。ところが分厚い葉っぱは、緑色の光を無駄にすることなく利用しているのだ。逆の言い方をすれば、緑色の光を無駄にすることがないように、光の強い場所に育つ植物の葉っぱは厚くなっているのだ。(「入門 たのしい植物学」<田中 修著：講談社ブルーバックス>より、図・文を引用)』

この緑色の光の効果の話を読み出しながら、若い先生方に研修などをおして、子どもたちからのいろいろなタイプ(色)のサイン(光)を沢山受け止めることができるようになってほしいと感じました。(十河)

## 研究・研修係から

### 多くの教職員の皆さんの参加をお待ちしています

#### 授業(保育)実践論文公募事業

本年度も授業(保育)実践論文を募集しています。先生方の授業(保育)での取り組みをまとめてみませんか。日々の実践を整理していく中で、児童・生徒のもつ学習課題など、見えてくるものがたくさんあります。また、若い先生方へ先輩の取り組みを伝えていただければと考えています。

#### ニューステージ研修Ⅲ

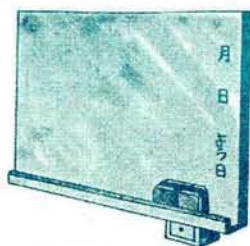
本年度から、教職経験2年目の先生方を対象にスタートしました。自分たちで課題を見つけ、解決するための方法を考えていきます。授業研究を中心に進めていく研修です。模擬授業、研究授業を通じて児童・生徒のもつ学習課題の解決方法を探ってみませんか。集い、話し合う中でお互いを刺激しあい、授業力の向上を図る場をつくりましょう。

#### 研究協力員

研究協力員による研究活動が始まります。教材や授業方法について集い研究を進めていきます。多くの先生方の参加を得てさまざまな研究成果をあげています。成果は毎年、研究協力員報告会で発表されます。

#### 教育図書・教材の閲覧

教育センター6階ロビーでは、教育図書や教材の閲覧ができますのでご利用ください。教職員の皆さんには貸し出しも行っています。土曜日の午前中も閲覧・貸し出しは可能です。ぜひお越しください。



## 情報・科学教育係から

情報・科学教育係では、子どもたちの「情報活用能力」の育成、「わかる授業」の実現にむけ、とよなかスクールネットの充実、デジタルコンテンツの活用や校内LAN整備などの事業に取り組んでいます。

また、「タッチ・座・サイエンス」(子ども科学振興事業)や理科教育の充実を図り、科学教室、親子理科講座など子どもの興味関心を喚起できる催しや授業で活用できる研修を展開するなどのサポートをしています。

### 今年度の取り組み(抜粋)

#### 校内LANが新たに14校に整備されます

昨年に引き続き今年も予算化されました。今後、希望調査をいたしますので、ご検討ください。

#### メールシステムが変わります

現在利用いただいていますアスキーメールから新しいメールシステムに変更になります。メールアドレスは変わりません。個人でのパスワード変更が可能になるなど機能もアップします。準備が整い次第、連絡いたします。

#### ホームページ作成支援システムが導入されます

より簡単に、学校のホームページが作成できるシステムも導入されます。学校の情報発信にお役立てください。詳細は、後日お知らせいたします。



## 養護教育係から



特別支援教育について、eひろば第24号（3月23日発行）で概要を紹介しました。豊中市に新しく赴任された教職員の方々をご参照ください。（教育センターに少し残部があります。）

なお、国は「特別支援学校」「特別支援学級」の名称を使いますが、大阪府では、平成19年度（2007年度）の名称について、これまでと同様、盲・聾・養護学校および養護学級としています。豊中市でも府に準じこれまでの名称を使っています。

### さまざまな場で学んでいる子どもたち

今回は、「通級指導教室」と「院内学級」についてご紹介します。

#### 豊中市通級指導教室

豊中市では、小学校に在学する児童を対象に「ことばの教室」を庄内・克明・桜井谷小学校の3校に設置し、通級による言語の指導を行っています。ことばに関して気がかりなことがありましたら、通級指導教室または豊中市教育センターにご相談ください。



#### 院内学級

市立豊中病院には、桜井谷小学校と第十三中学校の院内学級があります。ここでは、入院中の児童・生徒が退院後スムーズに学校生活に戻れるように個々の子どもに応じた学習を進めています。

他の医療機関に入院した場合、養護学校の分教室・訪問教育等もありますので、ご相談ください。

## 教育相談係から



### 新しい教育相談がスタートします

発達相談（初期相談専用） 予約電話 6844-5292

1. 夏休み特別相談→夏季休業中に発達相談を4回実施します。  
7/30、8/6、8/13、8/20 いずれも月曜日午前中
2. 発達相談→2学期より、毎月第1・3月曜日午前中に実施します。

★相談場所：教育センター

★相談方法：面接相談等（6月28日より予約受付）

★相談対象：3歳半から中学生までの子どもとその保護者

★相談員：臨床心理士 津田仁美 先生

教育相談研修（第1回）5月29日（火）14時30分～

講演 「心のケアを必要としている子どもたちに向き合って」

精神科医 山下 仰 先生

多くの子どもたちの心に接してこられた山下先生から、発達段階に応じた、子ども理解とそのかわり方を、現在の傾向も踏まえながら詳しくお話いただきます。

なお、第2回は、7月23日（月）

「子どもを見る視点と教師の関わり方（パート2）」です。

昨年度、もう一度聴きたいと、多くの希望がありましたので、臨床心理士 井上序子先生を再度お招きし、パート2を実施します。



## 心の港

人生を航海にたとえることがよくあると思います。厳しい航海を終えた船を迎えてくれるのが、港です。人にも疲れたとき、困ったとき、不安なときに癒してもらえる心の港が必要で、第1の心の港は家庭です。外の世界で行き詰まっても、家庭での関わりの中で安心感をもらい、また外の世界へ出て行きます。この繰り返しを通して、少し失敗しても自信を回復し、また挑戦できるようになるのだと思われます。

子どもたちが長く過ごす学校の中にも、その子の心の港があることで、安心して学校生活を送ることができるのではないのでしょうか。その心の港は担任の先生はもちろん、調子が悪い時に対応してくれる保健室の先生、毎朝「おはよう」と声をかけ迎え入れてくれる先生、小学校高学年や中学生ではクラブの顧問の先生、スクールカウンセラー等が担うこともあります。

子どもが話したい、聞いてほしいというタイミングを逃さずに、これらの大人が話を聞いてあげることで、子どもはすっきり安心した気持ちになります。それでは、どんな声かけをしたらいいのでしょうか。子どもへの何気ない一言は大人が思っているより影響があります。例えば「また、あなたなの?」「また、忘れたの?」と言う時、この『また』という言葉で、大人は自分のことをそういうふうにいるのかと感ずるかもしれません。子どもは言葉にこめられた気持ちを敏感に感じとっています。

そこで、『ありがとう』『がんばっているね』という言葉かけを意識して使ってみるのはどうでしょうか。「ありがとう」は当たり前すぎて言っていないことも多いと思います。ちょっとしたことでも、「ありがとう」「助かったよ」と声をかけることで、子どもは自分のしたことが相手に認められた、自分も役に立っているという気持ちを持ちます。そして、できていないことを「がんばれ」と声をかけるより、今できていることを「がんばっているね」と言うことで、子どもは自信をつけていき、今の自分が認められているという気持ちを持ちます。

このような子どもを認める声かけが、子どもたちの気持ちを聞くきっかけになり、家庭の外でも、大人との信頼関係を深めていくことにつながります。そのような大人との信頼関係が、子どもの心の港として支えになっていくのではないのでしょうか。(小澤)

